

03 2013年度グリーンアジア国際セミナー・総理工セミナー International Forum for Green Asia

日時: 2013年11月29・30日
場所: 九州大学筑紫キャンパス

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター 古野 裕史

11月29日、30日の両日、筑紫キャンパスにおいて「2013年度グリーンアジア国際セミナー・総理工セミナー」を開催しました。本会は博士課程リーディング大学院プログラム「グリーンアジア国際戦略プログラム」(以下GAプログラム)の国際セミナーと、毎年秋に開催されている総合理工学府主催の「総理工セミナー」との合同セミナーとして実施されました。またGAプログラムのコース生は、博士後期課程において国際セミナーを企画・実施する国際演習という科目が予定されており、これを見据えての開催となりました。今回は初の試みということもあり、全体としてのテーマを絞らずに政治、経済、環境、科学技術などに関して、グローバルな視点から広く学ぶためのセミナーとしました。

29日午後には中島英治総合理工学府長の挨拶と総合理工学府の紹介、原田明プログラムコーディネーターからのGAプログラムの説明の後、企業の第一線で活躍されているお二方に講演をお願いしました。九州電力(株)の原田達朗博士には、電力システムの改革、電力自由化、再生可能エネルギーなどの点から、国内の電力エネルギーの現状と将来について解説いただきました。宇部興産(株)の大田正芳博士には、総合化学メーカーであるUBEグループの海外進出について、スペインとタイを例に紹介いただき、その成功の鍵などについてもお話

いただきました。

翌30日の午前中は環境をキーワードとしたセッションを行いました。本セミナー唯一の学生講演者(博士後期課程に在学中)である京都大学大学院地球環境学舎の前奈緒子氏は、家電や車を例に消費者の環境行動の評価法について研究成果を発表されました。続いて九州大学大学院経済学研究院の藤田敏之教授には、ゲーム理論と環境問題の多国間協定のシミュレーションなどについて講演いただきました。午後からはグローバル化をキーワードとした2件の講演をお願いしました。双日(株)の田邊弘幸顧問にはご自身の豊富な海外経験を基に、世界の変遷とグローバル化、その中の総合商社の役割などについて特別講演としてお話いただきました。九州大学大学院比較社会文化研究院の施光恒准教授には、現在のグローバル化について疑問を呈し、再評価する立場から講演いただきました。最後に前氏を除く5名の講演者に登壇いただき「政治経済とグローバリズム」をテーマにパネルディスカッションをおこないました。司会進行は谷本潤GAプログラム副コーディネーターが務めました。

講演のうち4件とパネルディスカッションは日本語、講演2件が英語で行われましたが、本セミナーは一般にも案内されており、またGAプログラムの海外コア連携大学より教員及び学生を招聘していたことから、日

本語・英語の同時通訳付きで実施されました。そのため日本語での講演、パネルディスカッションに対しても、海外からの参加者からも活発な質問、意見が出されていました。

本セミナーは国内外から132名の参加者があり、盛会のうちに終わることができました。一方で会の準備、運営などで不慣れな点も多く課題も多く見つかりました。これらを改善して来年度以降、より意味のあるセミナーとなるようにしたいと思います。

講演一覧

“Utilization of Carbon Resource toward Future Electricity System Reform”
原田 達朗(九州電力(株)総合研究所・九州大学客員准教授)

「UBEグループのグローバル戦略」
大田 正芳(宇部興産(株))

「グリーン社会を支援する技術/環境配慮行動運動型評価法の開発」
前 奈緒子(京都大学大学院)

「環境問題とゲーム理論」
藤田 敏之(九州大学)

「流動化する世界の中の総合商社」
田邊 弘幸(双日(株)・筑波大学客員教授)

「グローバル化を疑う「国作り」(nation-building)という観点の再評価」
施 光恒(九州大学)

